

07シンポ記録

林（大学入試センター[現九州大学]教授）：こんにちは。お招きいただきありがとうございます。皆様のご期待とかご意見とか、聞きたいことがたくさんあるだろうなあというのは先ほどの谷口先生のお話でよく解りました。岐阜は初めてやって参りました。ここはやはり鶺鴒とか色々ありますが、私の場合は真桑瓜です。岐阜は来たいと思っていた場所でした。……。

前置きはこれぐらいにして今日のお話は「大学入試と高校生の学力形成」というテーマですが、最初私は「大学入試センターの現状」という指示をいただいている、その後「大学入試センターで研究していること、そしてセンター試験はどこへ向かおうとしているのか」というタイトルでいただいたのですが、実は事前に12~3個の質問をいただいております、それに答えることで精一杯だろうと思っていますので、どちらかという今日の話は現状の方が中心になると思います。

さて、私は大学入試センター研究開発部に所属する教員です。昔で言うと文部教官です。研究開発部の構成員はすべて教員で、大学入試について研究している日本で唯一の機関です。とは言え、私についても入試のプロという言い方は適切ではありません。計算機統計学とか教育工学をメインに研究している研究者です。大学入試センターにおりますので、入試業務に関わっていますし、その他調査・研究等をしています。ここは3つ目の職場で、それ以前は大学の数学とか情報工学の教員をしていました。

そういうことですので、センターとしてどう考えるのかとか、センターはこれについて何と答えるのだという公式な発言はできません。ただ、研究者としては、大学の教員をやっていたという意味で、そういった立場での話ができるということで、ここにやって参りました。公式見解を言える立場にありませんので、その点は予めご理解いただければと思います。

センター試験では、我々の所に350万枚のマークシートが返って参ります。350万枚を2回読みますので、700万枚です。センター試験の利用大学の数が増えていて、今私学の8割がセンター試験を利用しています。子供達は減っているのに、大学生だけは増えているということはどうなるかという、進学率は54%なのですが、収容力が9割を越えた。すなわち全入に近いということになっていて、「全入時代を迎えるにあたって」という話を最近よく聞かれるようになった図がこれです。

参考までに、日本は高校進学率97%、大学進学率54%ということで、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカはこの位で日本よりも高等教育への進学率が低い国です。一方、韓国は100%-100%です。統計の取り方が若干違うので正確ではありませんが、ほぼ100%-100%と言われていています。韓国の入試はどういう現状か。「四当五落」とか自殺者が出るような状況で、いろいろと弊害があるそうです。進学率と受験競争というのはそれほど簡単な問題ではないことをご理解いただければと思っています。

ここまで触れたように、いろいろな話題がありますが、今日は主に大学入試センターの話をしたと思います。要覧を3冊だけ持って参りました。Webで全部見られますので3冊だけ回覧しますのでご覧いただければと思います。先月、1月に行なった試験がセンターとしては30回目の試験になります。共通1次試験が11回、センター試験が19回で、合計30回です。組織図はこうなっています。所長がいて、総務企画部、事業部、研究開発部となっています。真ん中が問題を作っている作題の先生方に関する委員会です。

私たちが入試センターの教員だということ、「来年何が出るのでしょうか」ということをよくたずねられます。冗談にでも予測めいたことを言って当たりでもしたら大変なことになりますが、我々は作題の委員ではありません。そこをまずご理解いただかないといけません。私は「研究者」です。大学に在籍する人たちと同じ「研究者」であって、「作題者」ではありません。問題を作る先生方は別の所において、全部非常勤、大学から出向してくださっている先生方です。我々は作題部隊ではありません。

この図の中でもうひとつ注目していただきたいのは上の部分です。所長がいて、大学入試センター

試験協議会があり、それを国・公・私立の大学が支えている。なぜこういう構造になっているか。これが今日の大きな話のひとつです。ご存じの方もおられると思いますが、「センター法」の第三条で、センターは「大学が共同して実施することとする試験」を実施する団体であると規定されています。要覧の中では「センターと利用大学が共同で実施」とも書いてあります。決して、センターが作って実施しろと言っているわけではありません。大学の先生から、センター試験に関して注文を付けられることがあります。大学とセンターが共同して実施しているわけで、センターが勝手にやっているわけではありません。

独立行政法人大学入試センター法

第三条 独立行政法人大学入試センターは、大学に入学を志願する者に対し大学が共同して実施することとする試験に関する業務等を行うことにより、大学の入学者の選抜の改善を図り、もって大学及び高等学校における教育の振興に資することを目的とする。
(http://www.shugiin.go.jp/itdb_housei.nsf/html/housei/h146166.htm)

毎年5月に高等教育局長から出される入試に関する大綱があるのですが、「実施の趣旨」の中に、「大学でどのように使うのかを定める」という文言が入っています。センター試験の内容は基礎的な学力を測定する試験で、しかも各大学が利用する方法については明らかにしなければならないとなっているわけです。だから、センター試験というのは、まるでセンターが全部決めて、大学の先生を集めて「これを作れ」と指示しているかのように受け止められることがあります。そんなことは全くないわけで、大学に依頼をしてたくさんの先生方に来て頂いて、共同作業をしているということになっています。センターは、難問・奇問を排除することを目的としているのは言うまでもありません。

皆さんが気付いておられるかどうか、ここが今日一番言いたいことのひとつなのですが、「センターが変わればどうのこうの」という話はそれはそれで結構なのですが、センターが変われば天地がひっくり返るとか、そういうことはございません。ここは注意していただきたいと思います。以前、大学が国立大学法人ではなかった頃、第二常置委員会という入試を管轄する委員会がありました。「5教科7科目入試」というのは2000年にこの委員会が答申を出して、国立大学の学長が総会で了解した後、2004年から取り入れられた指針です。大学が国立大学法人になり、大学入試センターも独立行政法人になった今、誰が入試について主体的に語れるのか？ いや、語れるのは語れるのですが、誰が実施に持ち込めるのか。センターではございません。私はセンターに12年間いますが、センターが提言を出してそれが実施に移されたということはありません。先ほども申し上げたとおり共同実施ですから、こちらからだけプッシュするわけにはいかない。大学にも同意してもらわないとそれはできないわけです。センターがどうのこうのと言うことではなくて、文科省がやってくれるかということ、独立しているわけですのでそれも無理ですね。国大協に入試委員会というのがあり、その第2期が08年3月で終わると聞いていますが、入試委員会が5教科7科目入試について新たに何かしようとしているかということ、それもよくわからない。

入試、入試と皆さんおっしゃるし、私も入試に関わっていますが、日本の将来の入試に関して誰がどこでリードしていくかということ、独立行政法人になったが故にひとつとしてリードしていくところが明確でないといった状況に陥ってしまっています。多分、日本の中でこれに気づいている人は極めて少ない。センターの中に居ても思うし、勿論センターではこういう議論をしているので皆知っていますが、非常にゆゆしき問題だろうと思っています。高校の先生方や大学の先生方が熱心にお話になるのは非常に良いことですが、どうやって具現化するのか、何か方策を考えなくてはいけないという状況になっているような気がいたします。

大学入試センターは、「センター法でやれることが決まっている」、「センター試験は共同実施」、「センター試験は、基礎的な学力を測る試験」ということが、今回のパンフレットでご理解いただければ、国枝先生からのご質問には大体皆さんご自身でお答えになれるだろうと思っています。

ここから、メールでいただいた質問(太字部分)に答えていきたいと思います。

→今後導入されることになるであろう、大学進学者の学力担保のための「高卒学力テスト」との関係はどう考えておられるのか？

これは、多分、高大接続テスト(仮称)のことを指しておられるのですよね。朝日新聞や読売新聞(08.01.23.夕刊)に載りましたが、新聞によると中央教育審議会の作業部会が提言をしたという記事になっています。ただ、ご質問に「なるであろう」と書かれているが、そうなのですか。(会場から、「いえ、判りません」の答え)。この段階では初等中等局で実施するのか、高等局で実施するのか、それとも他の所で実施するのか、まだ担当部署も決まってないと思います。したがって「なるであろう」と言われても答えようがありません。いつ、誰が、どこで、どう実施するのかは決められてないでしょう。これを、例えば私がここで唐突に「8月に実施します」と申し上げると、高校の先生方は教育を乱されるから止めて欲しいとおっしゃるのが解っていますから、闇雲に8月にできるとは思っていません。「いつ」というトピックだけでも相当議論が必要でしょう。「誰が」、「どこで」ということに関しても、現段階では提言が出ただけであって何とも言えません。「センター法」上でも「独法」上でもクリアーしないといけない問題もありますので、センターがどう考えるかと言われても「サア？」と言うしかないですね。

→科目間の平均点が揃うようにするのはたいへんだと思うが、どのようなことをやっているか知りたい。

これはよく受ける質問です。過去の経験があり分析をしております。それが研究開発部の仕事の大きな部分なのです。また、高校の先生にも一部委員として入っていただいて点検をしています。これはもちろん覆面です。作題する側にもチェックするシステムを持っています。ただ、「これだけあれば確実か」と言われても「判りません」と言うしかありません。実際に、平成9年には21.69点とか、昨年も19.35点とかの平均点差が出てしまいました。確実に平均点が揃うとは言えません。しかし、得点調整は、過去11年間に1回、平成10年に行なっただけです。

→センター試験は高校生に対してなにを訴えようとしているのか。

「何を訴えようとしているか」と言われても、困りました。「やってきてもらいたい勉強」ということだと思うのですが、これは、先生方が実施されている高校入試も一緒だろうと私は思っています。これ以上どう答えれば良いでしょうか。

→センター試験と個別試験の相関関係も調べてみえると思うが、どういった分析をしているのか。

センター試験の成績と個別試験の成績をプロットすると真桑瓜を縦に輪切りしたようになっていくわけです。倍率が高いと、こうなり、1次の成績が68点で、2次の成績が29点とかをプロットすると楕円の中に学生がプロットされる図です。合計点の高い順に100人採りたいという場合は、45°右下がりの線を上から下ろして行ってこの線より右上側に100人が入った時に定員ですと止めて、ここが合格ラインになるというわけです。例えば倍率が低い場合はと言うとこうなり、倍率の違いがこう出て参ります。くれぐれもご注意いただきたいのは、楕円は面積ではなく真桑瓜が山になっていて、つまり恐竜の背中ようになっていて体積です。先ほどの切り取った右上の半円形の部分の面積が100人の所で切っているのではなくて、そこに分割された学生の人数が100人になった所です。面積ではなく、体積であることに注意していただきたいと思います。

ここでクイズです。1次試験と2次試験の楕円が細長い、丸い、縦になっているの、合格ラインが斜めなの。どれが良い試験なのでしょう？・・・どれが良いとは言えません。それぞれ大学が考えることです。我々が何かを言っているのではなくて、共同実施をしているわけですから、各大学がどういった学生を採りたいのか、どういう2次試験をやりたいのかということです。

ただし、統計家としてコメントしたいことが2つあります。1つは、1次試験と2次試験の相関が

非常に高い場合ですが、つまり1次で80点取ると2次でも80点、1次で20点取ると2次でも20点。つまり1次の成績で2次の成績が予測できるような試験の場合は、2次は要らないように思います。ここに気が付いていただかないと困るのですが、相関が高いから確実な試験であるということも言えるでしょうが、2回試験を行なって2倍体力をかけているのに同じ特性しか測定していないと言うことは、2回目をやることはあまり得策ではない訳で、「私は」あまりお勧めしません。もちろん大学がおやりになるのは自由です。

もうひとつ、この図です。受験産業で、「センター試験(一次試験)の成績がこの位なら、A大学を受けろ」となった時に、1次の成績は非常に細いバンドになります。1次の成績で例えば8割から8割5分なら、A大学に行きなさい、と言うような大体ギリギリの所を狙いますので、学生さんの1次の帯はあのように非常に細くなります。2次試験の性能が良ければ、幅が広いことになるのですが、そうするとこういう楕円になるであろうと思われます。しかし、大学としては、なるべくこういう試験がやりたい、つまりどちらも広いレンジを持っている試験をやりたいと思うのですが、残念ながら受験指導が徹底しているためにこういうふうにはならないだろう、こっちになるだろうと思います。

谷口先生が先ほどセンター試験の重軽を言っておられましたけど、こう言う風な斜め45度は1対1で足しているということです。1対1でない足し方はこういうふうに斜めになっているということです。1次と2次をどういう配点比率にするのかは大学がお決めになられて、2次を重くしたいのであれば、こういう風な角度にされれば、今でも実現は可能なわけです。行なうかどうかはその大学がお考えになることだということです。

さて、そここでご質問に戻って。成績は個別の大学がお持ちですが、大学入試センターには返ってまいません。ですからあの図は我々には描けません。研究するなら共同研究ということになるので、現在そういった共同研究は行っていません。大学で行なっている事例をひとつ紹介します。東北大学での事例があります。この記事についてもいろいろと問題がありますが、それは時間の関係でここでは言及せずにおきますが、いずれにせよ個別大学でこういう図を描くことはできますので、個別の大学でおやりになればよろしいでしょう。センターではこういうことはできないということです。

→大学入試センターとして、各大学の個別試験をどう見ておられるのでしょうか。

「どう」とは、「どう」答えたら良いのでしょうか。

国枝：答えられないのだろうなあ、ということが今わかった。

前述の通り、個別大学の試験は、成績も含めて持ち合わせていませんので、分析もできません。行なうとしたら共同研究ぐらいだろうかなあとしか言いようがございません。

→私たちは、大学入試を落とすためのものにはせず、受験生の学習の目的・受験生の知を育てるもの・受験生を励ますものといった観点でとらえてもらいたいと考えるのですが、この点をどう考えるか？

「落とすため」ではなく「エンカレッジ」するために入試はあるべきだというのは全く同感だと思います。高校であれ、大学であれ、教員として当たり前のことでしょう。高校入試でも同じ事だと思っています。

→大学入試センターは、高校の状況をどうやってつかんでおられるのでしょうか。校長や教頭と言った管理職からの情報だけということはないですか？高校からの意見はどのように集約されているのでしょうか。

未履修問題を例にとってお答えしたいと思っています。2006年10月28日に話題になったことですが、その後「実は、文部科学省は4年前には知っていた」という内容の記事が出ました。この記事はあまり大きく取りあげられなかったのですが皆さんは覚えておられないかもしれませんが、この記事の中に

「東北大学 荒井克弘副学長・・・、研究会（代表 柳井晴夫 聖路加看護大学教授）」と書いてあります。2人はこの調査当時、実は大学入試センターの教員でした。実際に大学入試センターではこういう調査をしています。

33,000人の大学1年生に「あなたは高校で何を学んできましたか？」と聞いたら16%位の世界史を学んで来なかった学生がいました。私が着任してすぐの頃で、「これって良いの？」とびっくりした記憶があります。当然、その通りレポートは出ていったわけです。あの時、文科省は気がつかなかったということになっています。この委託研究は高等局が担当していた研究で、未履修については初等中等局の問題なのです。山のように送られて来る報告書のごく一部であり、気が付かなくても仕方なかったのではないかとも思っています。

いずれにしても、我々は高校のことを全く知らずに語っているとは感じないでいただきたい。いろいろなことで学生に調査をしています。去年の11月頃にも高校の実態についての調査を、我々の同僚が行いました。

→受験産業の分析をどう思うか？特に、自己採点の結果を、学校間・都道府県間で比べ合っている現状をどう考えているか？

そういう活動があることを今回はじめて知りました。前述の通りで、受験産業の動向は把握しておりませんので、これに関しては、お答えのしようがありません。

→センター試験の結果だけで合格を出す大学があるが、どんな大学、どんな比率なのか。その場合、しっかりと学力を測ることができていると考えるのか。

この質問には「水増し問題」と関連して説明すると良いでしょう。センター試験の成績だけを利用して合否を決めていた大学があったが故に、1人の学生が73人の合格者としてカウントされていたのだということになっています。どのような大学があるのか、たくさんあります。実際に数え上げていませんが、募集要項を見ていただければお判りいただけると思います。「しっかりと学力を測ることができているか」と聞かれても「ある程度は……」と答えるしかないでしょうね。皆さんも評価の冊子を出して下さっていますが、我々のウェブにも載っておりまして、高校の教員もしくは教育団体、例えば数学教育学会等から評価をしていただいて、この位の厚さの物になっておりますので、ご覧いただければと思います。先生方の「しっかりと」という意味は相当厚みのある「しっかりと」ということだと思いますが、それは無理と言ったほうが良いと思います。記述式とマーク式では明らかにスペックの違いがあるわけです。記述式試験の得意な分野とマーク式試験の得意な分野があって、何でもかんでもセンターで測れると期待するのは間違っているというのは解っていただけたらと思います。その辺は、どっちをどうするかという塩梅です。共通1次の最初の理念では2回の試験のうちの1回目であるということになっていたわけで、それを勝手にバラ売りするのは私個人の見解としては少し問題だろうと思っています。

→今後、国公立大学にもAO入試や推薦入試が増えていくと思うが、センター試験を課す必要はないと考えているか。それとも、基礎学力を測るという意味でセンター試験を活用したほうが良いと考えるか。

増えていくかどうかは不明ですね。例えば九州大学法学部がお止めになることを明らかにしましたから。「増えていくと思うか」と言われても「そうでしょうか」と言わざるを得なくて、先程の「高大接続テスト(仮称)」との関連もあると思いますが、どうするかは個々の大学で考えて下さいと言わざるを得ません。私個人は、ちゃんとした試験をおやりになった方が良いと思っていますので、そのひとつとしてセンター試験も選択肢に入るのではないかと考えています。

→大学はどこまで知識を求めているのか。地方大学から5教科7科目の方針が崩れ始めているが、このことをどう思うか。

センター試験の5教科7科目化に関して、2000年の11月16日に日経が「国大協、原則合意」と報じ、2008年の1月12日には朝日が「国立大学、科目減の動き」と報じています。これも、もうそろそろ同じ事を聞き飽きてきたと思いますが、個々の大学が考えることで、センターがプッシュすることはできませんし、国大協が是非とも「5教科7科目」が守られるべきだということであれば、国大協に頑張ってもらおうと思いますし、そのためには、皆さんにも応援していただければとも思っています。

また逆に、負担は軽い方が良いというのであれば別の立場にお立ちになれば良いのではないかと思います。

→私たちの間で話題になっている、大学入試センターは記述式の問題を提供し、採点基準と解答例を示し、大学ごとに採点するというシステムをとることは出来ないか？

先程記述式の問題をセンターで作ってはどうかという指摘がありました。私は「共通試験で記述試験をやる必要があるのかどうか」という議論がひとつあると思っています。しかし、このご要望は国立大学から多く出てきます。「作るのがたいへんなので2次試験も作って欲しい」という声もあります。もうひとつ、難しいのと易しいのの両方作ってほしいというご要望もあります。いろいろなご要望があるのですが、そのひとつに記述式というのもございます。

そういう意味ではひとつの方法だと思っています。これにはいくつか解決しなくてはいけない問題があると思います。まず、大学が乗ってくれるか。「勝手にやってくれ」ということになるか、ニーズがあるかどうかを把握する必要があるということです。

それから、ここには「採点基準と解答例を示し」とありますが、「要らない」という大学が結構あるのではないかと想像します。「うちは分数の計算については問わない」とかいうようなところが出てきて、解答例はあるかもしれませんが、採点基準や配点基準となると個々の大学でお決めになるのではないかなと思っていますから、それが要る、要らないということになるかも知れません。

センター試験のひとつの利点は、複数の大学を受けられることです。一人の答案を名古屋大学に送ってしまうと我々の所には答案がなくなるわけですから、次に岐阜大学を受ける時、名古屋大学から答案を回してもらって、というわけにはいかどうかですね。複数大学受験者をどうするのかと。我々がコピーを350万枚、もちろんリクエストがあればしても良いのですが。それをどう考えてどう実現するのかという技術的な問題もあります。

いずれにしても、私もそれがひとつの方法だとは思っています。できるかどうかは大学との相談だと思いますが、良い方法だとは思っています。

→センター試験が高校に及ぼす影響を、大学入試センターはどうつかんでいるのか。高校にとってセンター試験の影響力は絶大だが、「センター試験の問題が、高校生にとって標準的な問題だ」という時、その高校生がセンター試験を受ける高校生ばかりか、もっと多くの高校生にも影響してくるという現実を意識しているか（ほとんどの進学校はカリキュラムをセンター試験向けに組むので、センター試験と関係ない生徒にまで影響が及ぶ）。また、これに対してどんな調査が行われているか、どんな分析が行われているか。

これは、周辺の高校生にまでセンター試験が影響して行くのだという、先程ご指摘があったことなのですが、もちろん、影響力があることはたくさんの未履修問題を見ても判ることです。それは、大学人ならば皆が承知していることだとは思いますが。

→センター試験というのが、対策をすればするほど点が取れる試験で、そのため早々と問題演習にかかる傾向があると言うことを認識されているか。また、その傾向をどう思われるか。さらにセンター試験より個別試験の方が重視されるようになっていられると言われるが、高校は経験的にセンター試験の結果が合否につながると認識しており、それが一層センター試験の問題演習に向かわせるということに関してどう考えるか。

本当に対策をすればするほど得点が上がるのでしょうか。私は一浪していますが、何か違うような気がします。対策というのは、点数を上げるための方策を言うのであって、落ちるための対策という

のではないでしょうし。早い段階から、1年生からセンター問題を入れるという話もされていましたが、そういうことをされて対応されているのだなあと思いました。

それと2つの試験の重軽がどうなっているかと言うことに関しては、センター試験の結果だけで合否を決める大学が、先程の話ではないですが、少なくとも73はあるわけですから、どちらが重いのか軽いのかというトレンドは私には分かりません。どちらが重要視されているかは分からないので、この質問自身になんとお答えして良いのか、「大学によって違うでしょう」としか言いようがありません。

ところで、私に対して多くの質問がされましたので、今度は皆さんに質問したいと思います。

一つ目として、ここまでも多様化した大学入試というのは皆さんがお望みなことなんでしょうか。大学人としては非常に問題だと思っています。「多様化せよ、多様化せよ」というかけ声をあちこちで聞きますが、こんなに大学入試が多様化している国は、私の知る範囲ではありません。これ以上に多様化せよと言っても、既にトップのところにいるのに、さらに多様化してどうするのかという思いがあります。多様化は歓迎なんでしょうか。大学人として問題だと思うし、高校の教員も、今日の谷口先生の話では危惧されているわけですから、これは何か考えた方が良いでしょうと思います。

次に5教科7科目に関して、それでは多いのが良いのか少ない方が良いのか。これは先生方の中で意見が分かれるのかもしれませんが、私個人としては多い方が良いでしょうと思いますが、今回の質問を見ていると、少ない方が良いのかなとさえ思ってしまうのですが、どうなのでしょう。

3つめは現場に対してのコメントですが、高校の教育課程が、コース・類型等々結構複雑化していますが、あれは良いのでしょうか。もう少し単線化というか、一本では困るかもしれませんが、もう少しシンプルにされても良いのではないかと思います。「高校の先生が決めているのではない」という声も一部から聞こえて来そうですが、勿論それも半分事実だとは思っていますが、そちらでもう少し考えても良いのではないかと思います。

また、大学入試の多様化の話をしました。実は高校の入試も多様化されていますね。中高接続と言うかどうかは知りませんが、高校入試の多様化をどう考えるか、その部分も考える必要があるだろうと思っていますし、その先には高校教育の理想は何なのだろうということに関して、皆さんに問いかけてみたいとも思っています。一研究者というよりも、一国民として聞いてみたいものです。「高大接続」という事に関して、なかなかうまい答えは見つからないように思いますが、グランド・デザインをどうすれば良いのだろうということをお聞きしてみたいと思います。入試センターは、説明してきたように、それほど力はございません。

最後に小さな質問です。受験産業から、「合否判定」と言ったようなデータ提供を受け、それがC判定で、しかし生徒に「どうしても行きたいのなら受ける！」というようなあの決断は、先生方の頭の中でどのように思考されて判断されているのか。多分過去の経験とか、そういったものから決断されるのだろうと想像していますが、一度聞いてみたいと思っていました。

以上です。皆さんのご期待にほんの少しだけでも応えられたら嬉しいのですが。与えられた大きなテーマではなく、今日は現状について説明させていただきました。今日の話をついやる議論の下地にさせていただけたらと思っています。大学入試センターは、大学入試の極々一部を担っているだけで、センターがどうこうというのは期待し過ぎだと思っています。いずれにせよ、ここに居られる先生方の所を通して来た学生が我々の目の前に来るということでは、高大連携というのが将来ますます重要になっていくでしょうし、そのために受け渡しの実現に良い方法があればと思っています。

と言うことで、今回は真桑瓜の実る頃にお会いできれば幸いです。どうもご静聴、ありがとうございました。